事例No.	1766
公表年度	R4
団体の属性	一般市
団体名	宮城県名取市

事例区分	公営企業

タグ	・下水道事業 ・公共施設の集約化等 ・（行政改革）業務の効率化

事例種類	広域化等

事例内容・タイトル

農業集落排水事業大曲処理区の流域下水道への編入・接続

出典

公営企業の持続可能な経営の確保に向けた先進・優良事例集

【宮城県名取市】
農業集落排水事業大曲処理区の流域下水道への編入・接続

広域化等　下水道事業

宮城県名取市建設部下水道課

取組の概要

農業集落排水事業大曲処理区の処理施設について、維持管理経費および今後発生しうる施設の更新経費を抑制し、下水道経営の健全化を図るため、当該処理施設を廃止して公共下水道に接続、接続先の公共下水道を通じて阿武隈川下流流域下水道へと接続する。

◆総事業費　調査設計委託料52,100千円、工事請負費335,800千円

◆背景

- 大曲処理区の農業集落排水事業については令和3年度決算時において経費回収率が71.87%であり、料金収入で維持管理経費を賄えておらず、今後も処理施設においては老朽化による施設の更新費が多額になることが見込まれていた。
- これらの課題を解決するため、大曲処理区を名取第四処理分区に接続することとし、農業集落排水事業を公共下水道事業へと統合することとした。

◆具体的内容

- 名取第四処理分区に接続管きょ1.7kmを整備することにより、公共下水道に接続し、阿武隈川下流流域下水道へと接続する。

◆効果

- 大曲処理場の廃止により、施設の更新費及び維持管理費が削減される見込み（更新費▲203,500千円、維持管理費▲39,300千円/年）。
- 事業統合により、恒常的に計上していた純損失が解消される。

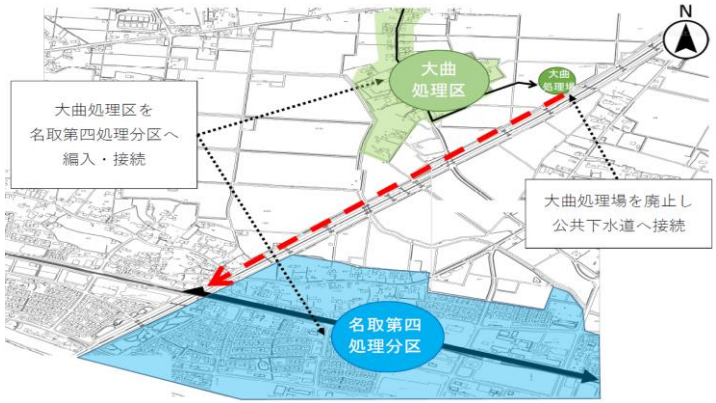
取組のポイント

- 名取第四処理分区に接続管きょ1.7kmを整備するために、総額387,900千円という多額の事業費を計上することとなったが、県と連携し、県が策定予定の「広域化・共同化計画」に対象事業を位置付けられる予定となっている。この計画に基づき当市としても市の「下水道事業広域化・共同化施設整備計画」を策定し、元利償還金について基準財政需要額への算入率が高い下水道事業債の借入を実施することで、市負担を軽減することが可能となった。

公営企業情報

- 行政区域内人口　78,573人（令和4年1月1日時点）
- 行政区域内面積　19.63km^2（令和4年1月1日時点）
- 処理区域内人口　74,894人（令和3年度決算）

編入する処理区の位置図



取組のスケジュール

- 平成28年度に検討を開始し、令和6年度に大曲処理場を廃止予定。
- 令和7年4月から供用開始予定。

今後の展望

- 当市策定のストックマネジメント計画に基づき、計画的な修繕・改築事業を実施することで施設の延命化及び適切な維持管理を図る。
- 厳しい財政状況下においても安定した下水道事業の運営を可能とするため、更なる営業費用の抑制（不明水対策等による流入水量抑制など）を検討する。